



# 成人病（生活習慣病）*News Letter*

## 巻頭言

### 新理事長挨拶

日本成人病（生活習慣病）学会 理事長 岩本 安彦

3月11日に東北地方、関東地方の太平洋沖の広い範囲を震源とするマグニチュード9.0という未曾有の巨大地震と大津波が発生し、多くの尊い人命と家屋が失われました。東日本大震災の犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。

本年1月14日に開催されました日本成人病（生活習慣病）学会理事会におきまして、本学会理事長を2期7年間に亘ってお務めいただきました跡見 裕先生がご勇退され、後任として私が本学会の理事長に就任させていただくこととなりました。

跡見先生は、日本成人病（生活習慣病）学会の理事長としてこの間、学会認定管理指導医制度の発足、教育集会の開催、学会主導の臨床研究の推進など、次々と斬新な方針を打ち出され、本学会の活性化に強力なリーダーシップを発揮されましたことは、学会員の皆様にはご存知のことと思います。跡見先生には引き続き理事長として本学会をご指導いただけるものと考えておりましたが、急遽後任の指名を受け、責任の重さに身のひきしまる思いであります。

本学会の目的は、その名称が示す通り、成人に好発し、死因に直結する重大な疾患であります癌、脳卒中、心臓病と、それらの基礎疾患というべき高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満などの成人病（生活習慣病）を幅広く対象疾患として、それらの

成因、病態、診断および治療に関する研究を推進し、その成果を共有することであり、そこで得られた研究成果を広く社

会に発信し、成人病（生活習慣病）の予防を目指して強力な啓発活動を行うことも本学会の重要な使命であると考えております。本学会の会員の診療科は内科系、外科系に広く分かれており、産業医の先生方の参加が多い点も特徴といえます。

私は、跡見先生が推進されました本学会の従来の活動方針を当面踏襲するとともに、学会の役員の方々、会員の方々の御支援、御協力を仰ぎながら、本学会のさらなる発展に、微力ではありますが全力を注ぐ所存ですのでよろしくお願い申し上げます。具体的には学会員の多様なニーズに応えるような新規の活動を展開することによって会員数をさらに増加させること、コメディカルスタッフの参加を促進することなども目指したいと考えております。

なお、跡見先生には、名誉理事長にご就任いただくことが理事会におきまして決定されました。今後ともより高い立場からご指導いただくこととなりますので、併せてお知らせ申し上げます。



## 第46回日本成人病（生活習慣病）学会開催のご案内

会 長：北川 泰久（東海大学医学部附属八王子病院 院長）

会 期：平成24年1月14日（土）・15日（日）

会 場：都市センターホテル（東京）

連絡先：東海大学医学部附属八王子病院

〒192-0032 東京都八王子市石川町1838

TEL：042-639-1111 FAX：042-639-1180

\* 一般演題締切り予定：9月末日



## 亀田治男先生のご逝去を悼む

亀田治男日本成人病（生活習慣病）学会名誉理事長が、平成22年11月15日にお亡くなりになりました。ここに慎んで哀悼の意を表します。また、本年3月12日に、亀田治男先生の東京慈恵会医科大学内科学講座、消化器・肝臓内科学葬があり、私は日本成人病（生活習慣病）学会を代表して、弔辞を拝読させていただきました。

亀田先生は大正14年8月7日のお生まれになり、旧制第2高等学校を経て、昭和24年に東京大学医学部を卒業されました。まさに日本が大戦のさなかから終戦へと向う時代を、医学生として過ごされたのです。先生から、焼け野原になった東京の状況と、その間も続いていた医学部の授業のことをうかがう機会がありました。戦後の大変さよりも、医学の勉強ができる喜びが本当に強かったとお話しになりました。卒業後は東京大学附属病院で実地修練を行い、その後、東京大学医学部第二内科学教室に入局されました。専門として消化器病学を専攻され、東京大学大学院に入学されております。学位論文は“肝の循環動態に関する臨床的研究”であり、大学院修了後、助手、講師と昇格されております。昭和40年からアメリカのジョージタウンズ大学内科に留学されました。帰国後、東京大学医学部専任講師になられ、昭和49年4月には東京慈恵会医科大学第一内科教授に就任されました。平成元年3月に退任後、長い間東急病院院長を勤められました。

亀田先生は、厚生省特定疾患調査研究班の班長を始め、文部省大学設置審議会専門委員等実に多くの要職に就かれました。また学会関係では日本内科学会、日本消化器病学会など主要な学会の理事であられました。

ことに私ども日本成人病（生活習慣病）学会では、理事長としてご指導いただいたことは、会員一同よく知るところです。

そもそも、日本成人病学会は昭和45年、上田英雄、石川浩一両先生を代表として設立されました。亀田先生は恩師である上田先生とともに、この学会の設立に尽力され、その後は理事として活躍されました。まさに、上田理事長の片腕ともいえるべき存在であり、私は幹事として理事会の末席にいましたが、亀田先生が積極的に発言されていたことをよく覚えております。昭和59年には第18回日本成人病学会を主催されております。そして、平成7年1月に日本成人病（生活習慣病）学会の第3代理事長に就任されました。3年間の理事長在任中には、学会の活性化、広報活動の強化を中心に学会をリードされ、今日の本学会の方向性を明確に示されたのです。その後は、名誉理事長として引き続きご指導をいただいております。私が理事長になってから、定期的に市民公開講座を開くようになりました。その会で千名を超える参加者があったとき、亀田先生は“私が望んでいたのはこれなんだよ。跡見君よかったね”と、本当に喜んでいただいたことが今でも思い出されます。

亀田先生の後、戸田剛太郎先生が理事を引き継がれ、今日では田尻久雄先生が日本成人病（生活習慣病）学会理事として活躍され、先生の開かれた道はしっかりと受け継がれております。私は専門が亀田先生と同じ分野であったことから、個人的にも編集委員会や学会等で大変お世話になりました。常に優しく、時に心配そうにお声をかけていただいたことを心より感謝しております。私が、外科医として初めて日本消化器病学会理事長に就任した時も、数々のご助言をいただき、その一言一言が私の支えとなってございました。心より御礼申し上げます。

亀田治男先生が情熱をかけ貢献された日本成人病（生活習慣病）は着実にその活動の場を広げております。私ども後続くものはさらに発展させるため努力する所存であります。どうぞいつまでも暖かくお見守り下さい。

日本成人病（生活習慣病）学会名誉理事長  
杏林大学学長 跡見 裕

## 第45回日本成人病（生活習慣病）学会を終えて

第45回日本成人病（生活習慣病）学会会長  
労働者健康福祉機構 名川 弘一

第45回日本成人病（生活習慣病）学会は平成23年1月15日（土）、16日（日）の二日間にわたり都市センターホテルにおいて開催され、約450名の参加者を得て、盛会裏に終えることができました。これも学会関係者をはじめ多くの方々のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

“人”それぞれが健やかであるために”、これを本学会のメインテーマとしました。からだのどこにも病がなく健康であることは、もちろん理想的なことです。しかし、たとえ病があったとしても、その病を上手にコントロールして、健やかであること、これも大切なことであり、そのコントロールの仕方はその「人」によってそれぞれ異なるもの、との思いからこのメインテーマを掲げました。振り返ってみますと、各講演の演者の先生方には生活習慣病に関する情報をいろいろな領域より提供して戴き、そのお蔭で、参加者にとってはそれぞれの情報収集ができて、メインテーマの内容が達成されたのではないかと考えております。



### ◆ 会長講演

シンポジウムⅡの「職域における生活習慣病の診断と管理—ドック健診と医療機関の連携—」では、福井敏樹先生、高橋秀孝先生、古河泰先生、西村理明先生、石坂信和先生、平野勉先生に講演をいただきました。ランチョンセミナーでは、寺内康夫先生に「糖尿病治療の新たな展開—インクレチン関連薬を中心に—」、倉持英和先生に「大腸癌補助化学療法の最新の知見」、角田明良先生に「経口フッ化ピリミジンを用いた大腸癌術後補助化学療法の現状と展望」、橋本洋一郎先生に「ストップ！脳卒中—中ステージに応じた脳卒中予防—」と題した講演をいただきました。一般演題には60題の応募をいただき、各領域での発表と討議が行われました。また、「膝痛・腰痛・骨粗鬆症 ロコモティブシンドローム」と題した市民公開講座では、会場は満席の状態、中村耕三先生、石橋英明先生のお話のなかに、和やかな雰囲気の中で幕を閉じました。



### ◆ 理事長講演

具体的には、跡見裕先生に「日本成人病（生活習慣病）学会の現状と今後の課題」と題した理事長講演をいただきました。門脇孝先生に「生活習慣病の分子機構と治療戦略」と題した特別講演をいただきました。吉岡泰夫先生に「病院の言葉を分かりやすく」、後藤信哉先生に「加齢と血栓症—抗凝固薬・抗血小板薬の使用法—」と題した教育講演をいただきました。Meet the Expertでは、山縣邦弘先生に「慢性腎臓病（CKD）の原疾患および進展因子としての生活習慣病の重要性」、加藤雅明先生に「ステントグラフト内挿術」をお話いただきました。プレナリーレクチャーでは、岩坪威先生に「アルツハイマー病の分子病態と根本治療」、曾根博仁先生に「生活習慣病に対する食育指導について—現代日本の肥満とやせを中心に—」をお話いただきました。シンポジウムⅠの「生活習慣病時代」におけるがんの予防と治療」では、古野純典先生、室圭先生、比企直樹先生、藤城光弘先生、井垣浩先生に講演をいただきました。



### ◆ 市民公開講座



## 第45回日本成人病（生活習慣病）学会 一般演題【会長賞】

第45回日本成人病（生活習慣病）学会は1月15(土)、16(日)に開催されました。

今回も一般演題の各セッションより一題を優秀演題として座長の先生に選定いただき、以下の12演題が会長賞として選定されました。皆様のご協力により活発で有意義な討論ができ、盛会のうちに終えることができましたことを心より感謝いたします。

第45回日本成人病（生活習慣病）学会 事務局 北山丈二

### 第45回日本成人病（生活習慣病）学会 【会長賞】

セッション名	演題名	演者／所属
代謝・内分泌 1	フルバスタチン治療下の高脂血症患者の心、脳イベントについて、年齢差、性差の検討	中谷 矩章 中谷内科クリニック
代謝・内分泌 2	若年2型糖尿病患者における左室重量関連因子の変遷	酒井 敬子 東京女子医科大学 糖尿病センター内科
健診・ドック	大学健診での腹囲、内臓脂肪量の二次元区分による生活改善意思および検査指標の検討	中山 紳 大阪医科大学医学部 衛生学・公衆衛生学
悪性疾患1	下行結腸原発の spindle cell carcinoma の1切除例	横山雄一郎 茨城県立中央病院・地域がんセンター 外科
悪性疾患2	糖尿病による発癌・癌死のリスク：全世界のデータのメタアナリシスと人種間の比較検討	能登 洋 国立国際医療研究センター病院 糖尿病代謝症候群診療部
脳神経・ 動脈硬化	脳梗塞における頸動脈プラーク—早期動脈硬化症研究会の分類による検討	阪部 恵理 東海大学八王子病院 神経内科
循環器1	高齢心臓弁膜症患者の酸化ストレスに関与する因子の検討	櫃本 孝志 ひつもと内科循環器科医院
循環器2	大規模一般集団における内臓脂肪量変化と動脈硬化危険因子、動脈硬化疾患発症との関連	岡内 幸義 大阪大学大学院 医学系研究科 内分泌・代謝内科学
腎 蔵	HPLC 法による尿中微量アルブミン測定	奥田 真澄 順天堂大学医学部附属医院 腎高血圧内科
消化器1	マウス脂肪肝モデルに対する天然還元水による肝臓内脂質低下作用	松浦 静香 鳥取大学 大学院医学系研究科 遺伝子医療学
消化器2	肥満と手術部位感染の関連性	小嶋幸一郎 杏林大学医学部付属病院 消化器・一般外科
運動療法	「糖尿病予防改善エクササイズ講座」の効果について	真鍋 康二 重井医学研究所附属医院 内科



## 心肺蘇生法のガイドラインが5年ぶりに改定

筑波大学 救急集中治療部  
河野 了

国際連絡蘇生協議会（ILCOR）は「心肺蘇生法と緊急心血管治療のための国際ガイドライン（CoSTR）2010」を2010年10月18日に発表した。ILCORを構成する米国心臓協会（AHA）、欧州蘇生協議会（ERC）、日本蘇生協議会（JRC）などが、これと同時期にそれぞれの地域での事情を反映したガイドラインを発表したが、このうち、AHAが一次救命処置（BLS：Basic Life Support）ガイドラインを大幅に変更したことが話題になっている。今回のガイドラインでは、近年の研究により胸骨圧迫の遅れや中断が生存率を低下させる事が明確になったことを示され、傷病者の脳や心臓に酸素を迅速に送り込める胸骨圧迫・心臓マッサージが最も重要であるとする見解をより明確にしている。この「胸骨圧迫の最優先」を反映し、長年行われてきた「A（Airway：気道確保）→B（Breathing：呼吸）→C（Circulation：胸骨圧迫・心臓マッサージ）」の心肺蘇生の手順が、「C→A→B（循環→気道→呼吸）」の順番に変更されることになった。従来の手順では、感染防護具などの準備や気道確保に無駄な時間を要して心臓マッサージの開始が遅れることや、手技が比較的難しい気道確保、人工呼吸は実際には有効に施行されることが指摘されていた。今回の改定ではこの手順を心臓マッサージの後に変更することで胸骨圧迫が開始されるまでの時間の短縮化を図っている。また同様の理由で、「呼吸の確認」も簡略化されている。従来、「（胸郭の動きを）見て、（吐息を）聞いて、感じる」により行うこととされていた「呼吸の確認」は、傷病者の口元に顔に近づける行為に対する嫌悪感から、適切に行われておらず有名無実となっている傾向があった。今回、「呼吸の確認」は最初の意識（心停止）の確認の一部として迅速に行うこととし、実際の臨床現場に即した確認になっている。胸骨圧迫の手技については「強く・速く」がより強調され、速さは100回/分以上、深さは5cm以上と記述されるようになった。これまでは、実際には特に一般人が胸骨圧迫を行う際に、推奨されている圧迫回数（100/分）と深さ（4～5cm）を下回っていることが多かったため、今回のガイドラインでは、「以上」と記載して胸骨圧迫の上限を設けないことで、理解し易く、より早く深い有効な胸骨圧迫を目指している。胸骨圧迫の手技については「強く・速く」がより強調され、速さは100回/分以上、深さは5cm以上と記述されるようになった。これまでは、実際には特に一般人が胸骨圧迫を行う際に、推奨されている圧迫回数

（100/分）と深さ（4～5cm）を下回っていることが多かったため、今回のガイドラインでは、「以上」と記載して胸骨圧迫の上限を設けないことで、理解し易く、より早く深い有効な胸骨圧迫を目指している。

実際の手順（院内発生、救助者が有医療資格者の場合）

- 1 倒れている人（傷病者）を発見
- 2 周囲の安全確認・手袋、マスクによる感染防御
- 3 意識と呼吸の確認：“大丈夫ですか？”と声をかけ軽く両肩をたたきながら、同時に5-10秒で正常な呼吸をしているかどうかを胸部・腹部の動きで確認。  
意識がなく呼吸もないと判断したら
- 4 救急コールにより人を呼ぶ  
除細動器・AED、救急カートを要請
- 5 C（循環）の評価：頸動脈の触知
- 6 C（循環）の補助：乳頭と乳頭間の胸骨に手のひらの付け根近くを置いて胸骨が5cm以上沈むまで圧迫する。回数は100回/分以上。  
30回の胸骨圧迫を行った後に
- 7 A（気道確保）：頭部後屈あご先挙上
- 8 B（呼吸）：気道確保の状態ですぐに1秒かけて2回の吹き込み
- 9 AEDが到着するまで胸骨圧迫30：人工呼吸2の割合で心肺蘇生を継続
- 10 D（除細動）：AEDが到着したらすぐにAEDの電源を入れて音声の指示に従う
- 11 電極パッドの装着
- 12 AEDによる心リズム解析
- 13 傷病者に誰も触れていないことを確認しショックボタンを押す
- 14 すぐに心肺蘇生を再開

## 理事会・評議員会・総会報告

理事会（平成23年1月14日）・評議員会（平成23年1月15日）・総会（平成23年1月16日）が開催された。

◎担当理事より平成22年度学会運営状況・活動について報告がなされた。

◎担当理事より平成22年度会計報告がなされ、監事より監査が適正であるとの報告がなされた。

◎担当理事より平成23年度予算案の説明がなされた。

◎第45回会長より学術集会開催内容の報告と挨拶がなされた。

◆ テーマ：「人」それぞれが健やかであるために

◆ 市民公開講座テーマ：

「膝痛・腰痛・骨粗鬆症 ロコモティブシンドローム」

◎各委員会より活動報告がなされた。

◇ 広報委員会

ニューズレターを年3回発行。本年度 Vol.10-No.1 は4月発行予定であり、1月15日に編集会議を開き、内容の検討をする。

◇ ホームページ委員会

ニューズレターをホームページに掲載する。  
成人病に関するQ&Aを掲載する。（会員向け）  
他学会との相互リンクを幅広くしていく。  
各委員会の活動報告等のアナウンスしていく。

◇ 企画委員会

研究テーマ「生活習慣病患者における運動療法の有効性」を企画し、パイロットスタディとしてプログラムを作成し通常運動群と強化運動群で数例を実施中である。

◇ 資格制度委員会

第1回教育集会を昨年9月4日に開催した。  
認定管理指導医制度を1月17日より施行。  
ホームページ、ニューズレター等に規定を掲載する。  
認定管理指導医の申請を1月17日より開始し、ホームページに「申請について」および「申請書」を掲載する。  
本年度の申請の締切は10月1日とする。

◎再任評議員の再任が理事会・評議員会・総会にて承認された。

◎新幹事選出にあたり下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆ 北山 丈二：東京大学腫瘍外科 准教授

◎新評議員選出にあたり18名の下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆新評議員：

栗田 卓也：埼玉医科大学

石川 智久：東京慈恵会医科大学

石原 寿光：日本大学医学部

植木浩二郎：東京大学

内山真一郎：東京女子医科大学

江藤 一弘：帝京大学医学部

及川 真一：日本医科大学

大澤 勲：順天堂大学医学部

大矢 雅敏：獨協医科大学越谷病院

小林 滋：東京臨海病院

寺内 康夫：横浜市立大学

徳岡健太郎：東海大学医学部付属八王子病院

長坂昌一郎：自治医科大学医学部

船曳 和彦：順天堂大学医学部

原 眞純：帝京大学医学部附属溝口病院

穂苺 厚史：東京慈恵会医科大学

森 保道：虎の門病院

山地 裕：東京大学医学部附属病院

(アイウエオ順)

◎次期会長・副会長選出にあたり下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆ 第46回日本成人病（生活習慣病）学会会長

北川 泰久：東海大学医学部付属八王子病院 院長

◆ 同 副会長

富野康日己：順天堂大学 腎臓内科学講座 教授

◎現理事長退任に伴い下記候補を新理事長に推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆ 新理事長：岩本 安彦

東京女子医科大学 糖尿病センター センター長

◎理事長より学会の活性化事業推進およびプログラム・抄録集、ニューズレターの広告収入減少に伴い、年会費の値上げについて提案がなされ、（平成24年度より施行）理事会・評議員会・総会にて承認された。

◆ 一般：5,000円 評議員：8,000円

## 日本成人病（生活習慣病）学会 第2回教育集会開催のご案内

今日、成人病・生活習慣病の重要性が改めて認識されています。本学会では教育、啓発活動の一環として昨年度より教育集会を開催しております。今般は第2回ということで「高血圧症と各種臓器合併症の病態」と題し、高血圧症に伴うさまざまな障害について講義していただきます。教育集会受講は学会認定管理指導医取得の申請要件となりますので、ぜひご参加くださるようお待ちしております。

1. 日 時：平成23年（2011年）9月3日（土） 15：00～19：00
2. 会 場：千代田放送会館  
〒102-0093 東京都千代田区千代田1-1 TEL：03-3238-7401
3. 定 員：150名
4. 受講料：日本成人病（生活習慣病）学会 会員 3,000円 非会員 5,000円 コメディカル／研修医 1,000円  
受講料は申し込みと同時に下記へお振込みください。（会員・非会員共）  
お振込み確認後登録完了通知を送付いたします。  
**みずほ銀行 銀座中央支店（普）1221851**  
口座名：第2回日本成人病生活習慣病学会教育集会  
(ダイ2カイニホンセイジンビョウセイカツシュウカンビョウガツカイキョウイクシュウカイ)
5. 募集要項：官製ハガキ、またはE-mailにて申込み事項を記載し、日本成人病(生活習慣病)学会事務局までお申し込みください。
6. 申込締切：定員になり次第、先着順で締め切ります。
7. 受講証：受講修了者には日本成人病(生活習慣病)学会より受講証を発行いたします。
8. プログラム：「高血圧症と各種臓器合併症の病態」  
司 会： 富野康日己（順天堂大学医学部腎臓内科教授）  
淡田 修久（大阪府立成人病センター副院長）  
1. 概念・疫学 石光 俊彦（獨協医科大学循環器内科教授）  
2. 合併症の基礎と臨床  
1) 腎障害 木村健二郎（聖マリアンナ医科大学腎臓・高血圧内科教授）  
2) 網膜血管障害 湯澤美都子（日本大学医学部眼科教授）  
3) 脳血管障害 岩本 俊彦（東京医科大学老年病学主任教授）  
4) 心・循環器障害 梅村 敏（横浜市立大学大学院医学研究科病態制御内科学教授）
9. 申込み記載事項：E-mailの場合件名は“教育集会応募”  
第2回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会申込み  
\*氏名（ふりがな）  
\*会員番号・非会員  
\*勤務先・所属  
\*勤務先住所（郵便番号） 電話番号 FAX番号 E-mail
10. 応募先／受講に関するお問い合わせ先：  
〒113-0033 東京都文京区本郷3-40-3（株）文栄社 内  
E-mail：jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp  
TEL：03-3814-8541 FAX：03-3816-0415  
日本成人病(生活習慣病)学会事務局  
第2回教育集会 係

第2回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会  
担 当：熊谷 一秀  
(昭和大学附属豊洲病院外科 教授)



 **編集後記** 

**事務局からのお願い**

移動や引越し等が多くなる季節です。  
勤務先変更・住所変更・所属、役職等変更事項のある方は、  
必ず事務局へメール・FAX・葉書でご連絡下さい。  
(電話での変更受け付けは出来ませんのでご注意下さい。)

**入会のお勧め**

本学会は成人病・生活習慣病を対象とした学術団体です。会員数は現在約1,200名で、医師以外にも保健、栄養、スポーツ、検診関係の方々が数多く参加し、それぞれの場で活躍しています。新たに認定管理指導医資格制度や企画委員会による介入試験などの活動が開始されました。本会の趣旨に賛同して頂ける方の多数の入会をお願いします。

なお、申し込み用紙は事務局に直接連絡して取り寄せるか、ホームページの申し込み用紙をダウンロードしてお使いください。

また、ホームページの「入会のご案内」より直接お申し込みも出来ますのでご利用ください。

※ホームページから入会のお申し込みをされる場合、年会費のご入金を確認出来た時点で入会となります。(会員番号と手続き完了のお知らせメールを送信致します。)

ご入金の確認が出来ない場合は正式入会にはなりませんので、ご注意下さい。

一般会員年会費：3,000円／評議員年会費：6,000円  
入会金：なし

◆年会費値上げのお願い

次年度(平成24年度)より年会費を下記の通り変更致します。  
ご了承、ご協力の程、宜しくお願い致します。

一般会員年会費：5,000円／評議員年会費：8,000円

お問い合わせ・資料のご請求

**日本成人病（生活習慣病）学会**

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-40-3  
(編集部) 株式会社 文栄社 内  
TEL：03-3814-8541 FAX：03-3816-0415  
E-mail：jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp  
URL：http://www.j-seijinbyou.gr.jp

3月11日午後2時46分未曾有の大災害が始まった。まず、東北沖の太平洋下のプレートで発生したマグにチュード9の地震により太平洋岸の東北地方は震度5-7の激震に見舞われました。但しこの地震に関しては日本の建築物はまだ余裕があり、福島原子力発電所を含む多くの家屋は特に問題はなかったのです。その後太平洋沿岸を襲った地震後の大津波が甚大な被災を決定的なものにしました。

太平洋岸の多くの市町村は、大津波に対してある程度の備えをしていましたが、今回の津波はその大きさが人知を超えて並はずれていた為に、多くの都市で海岸線を中心に壊滅的打撃を受けたのだと思います。

ここで日本成人病（生活習慣病）学会の多くの会員を代表して、被災された会員の方々やご家族の方々に心からのお見舞いを申し上げるとともに、尊い命を犠牲になされた方々もいらっしやることと思ひ、ここに深くご冥福をお祈り申し上げます。

本当に地震だけであれば、津波さえなければ、多くの方の尊い命が奪われることは無かったのかもしれませんが。このような大自然の力を前にして初めて、我々人類は人知の余りの無力さを実感するのだと思います。

そして我々には福島原発が残りました。地震のみであれば大きな損傷を受けずに今頃平時に戻っていたのですが、津波の跡で原発の何時終息するとも解らぬ底なしの被害が明らかになるにつけて、本当に心が重くなって参ります。原発をパンドラの箱に擬えての説明では、人類は既に箱を開けてしまい、取り返しのつかない問題を抱え込んでしまったこととなりますが、ここで他の原発の稼働を停止する等の措置により、これ以上の問題を抱え込むことはなくなるとも考えられるのですが、この電力問題については今後の電力供給の在り方や地球温暖化、ひいては日本人の生活観念までも含めて真剣に考えていく必要があるかと思ひます。

この様な人類の道程の岐路に立って、どの様な方法で問題を解決していくのかを現代人である我々は問われているのであり、ある意味では我々の決断が今後の日本の迎える道筋を決めていくことにもなります。これから蒸し暑い梅雨の季節を迎えるに当たり、真剣に熟考する必要があるこのエネルギー問題を先送りして現実から逃げる事は出来ないのかもしれない。  
(青沼 和隆)

成人病（生活習慣病）ニュースレター  
Vol.10-No.1 2011年5月1日発行

発行人：岩本 安彦  
委員会顧問：増田 善昭・山口 巖  
責任編集委員：青沼 和隆 (筑波大学)  
編集委員：馬原 孝彦 (東京医科大学)  
大澤 勲 (順天堂大学)  
河野 了 (筑波大学)  
北川 泰久 (東海大学八王子病院)  
北山 丈二 (東京大学)  
佐藤 麻子 (東京女子医科大学)  
徳岡健太郎 (東海大学八王子病院)  
中川 敬一 (東京シーサイドクリニック)  
横山 登 (昭和大学豊洲病院)

印刷所：株式会社 文栄社

本誌広告申し込み先：日本成人病（生活習慣病）学会事務局  
(株) 文栄社 までお問合せください。